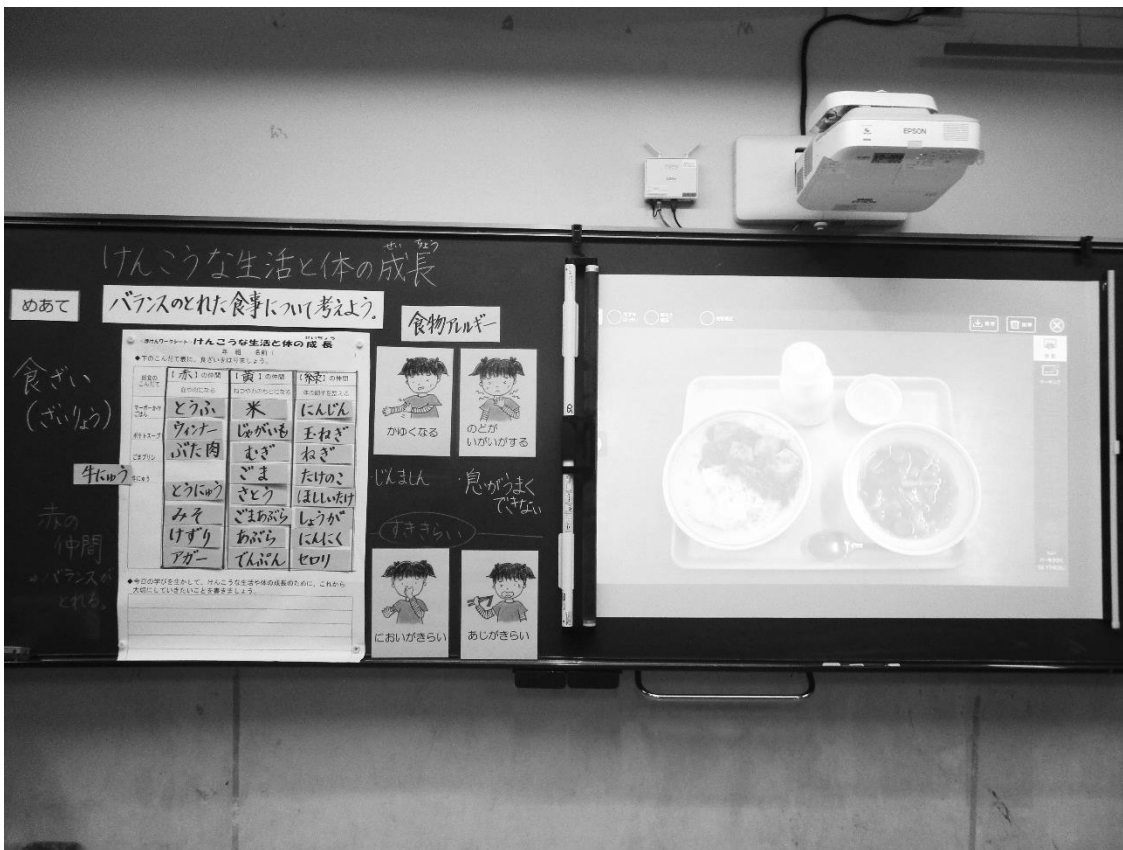
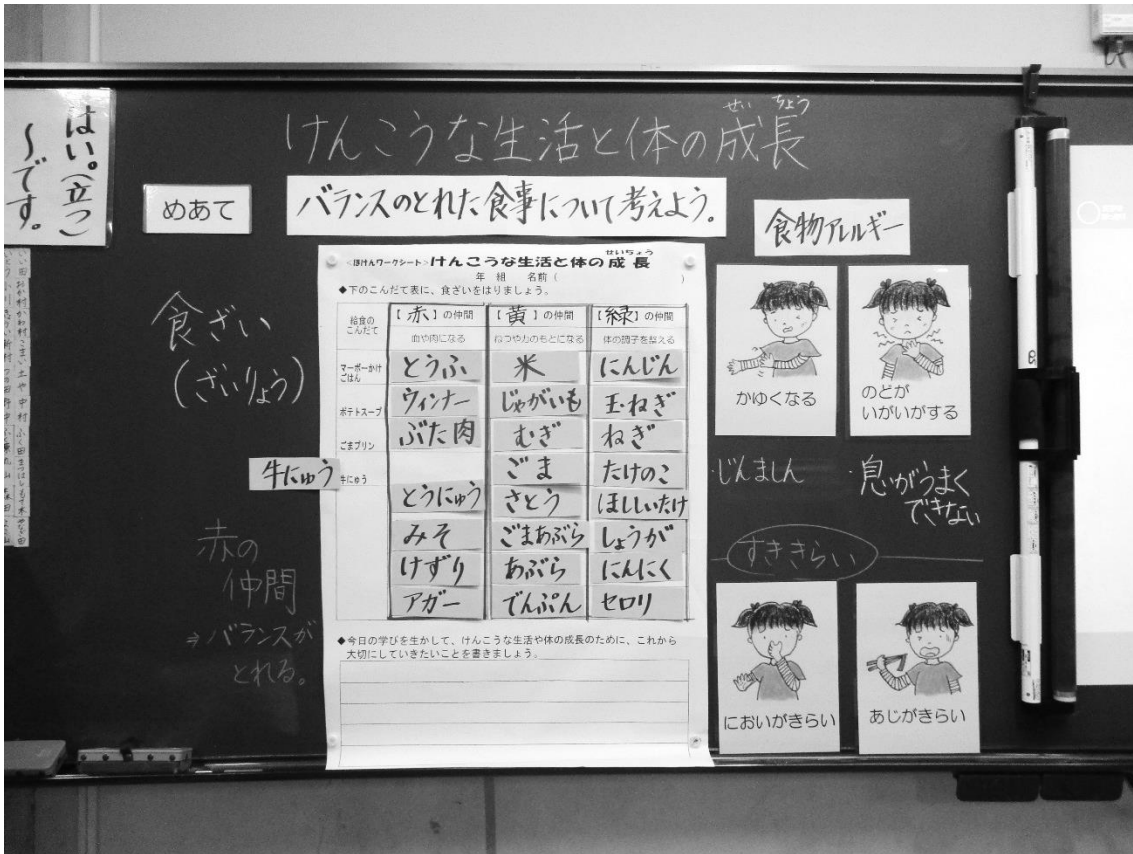


<板書計画>



<ワークシート (例) >

<けんけんワークシート>けんこうな生活と体の成長 せいちょう

3年2組 名前 ()

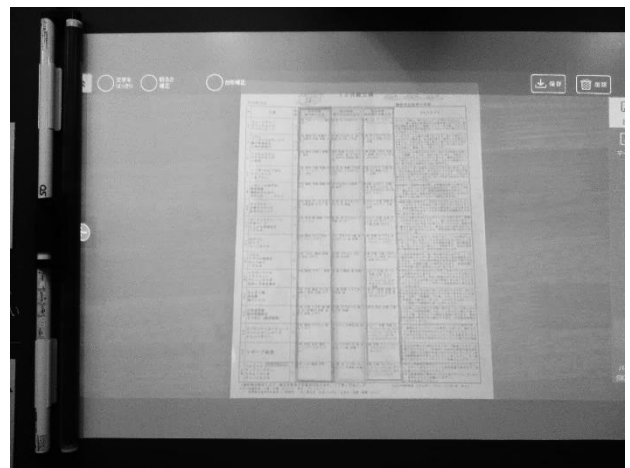
◆下のこんだて表に、食ざいをはりましょう。

給食の こんだて	【赤】の仲間	【黄】の仲間	【緑】の仲間
	血や肉になる	ねつや力のもとになる	体の調子を整える
マーボーかけ ごはん	とうふ	米	にんじん
ポテトスープ	ソーセージ	じゃがいも	玉ねぎ
ごまプリン	ぶた肉	むぎ	ねぎ
牛にゅう	牛にゅう	ごま	たけのこ
	とうにゅう	さとう	ほしいたけ
	みそ	ごまあぶら	しょうが
	けずり	あぶらご	にんにく
	アガー	でんぷん	セロリ

◆今日の学びを生かして、けんこうな生活や体の成長のために、これから大切にしていきたいことを書きましょう。

もし赤の仲間の食物アレルギーがあったら、そのほかの赤の仲間の食べ物を食べればもんだいはないことがよくわかりました。これからは食ざいを大せつにして、バランスよく食べていきたいです。

<プロジェクターによる教材提示例>



せいちょう

<ほけんワークシート> **けんこうな生活と体の成長**

年 組 名前 ()

◆下のこんだて表に、食ざいをはりましょう。

給食の こんだて	【 】の仲間	【 】の仲間	【 】の仲間
		血や肉になる	ねつや力のもとになる
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>この欄には、とりあげる自校の給食のメニューを記載してください。</p> <p>例 マーボー かけごはん ポテトスープ ごまプリン 牛にゅう</p> </div>			

◆けんこうな生活のための食事のとり方について、気づいたことを書きましょう。

6 中学年の授業について

平成30年度の実践	
学習の流れ	① 給食の写真を見て、使われている食材を付箋紙に記入する。 ② ワークシートの赤・黄・緑のグループを色鉛筆で囲む。 ③ 赤・黄・緑の仲間分けの答え合わせをし、付箋紙に書いた食材を3つのグループに分けて貼っていく。(分からなかったものは、ワークシートに直接書く。) ④ 一食分の給食の献立に、どの食材も、バランスよく入っていることを理解する。 一か月分の献立表を提示し、どの食事もバランスよく入っていることを確認する。 (献立表も3色の枠で囲む)
準備	・ある日の献立表 ・ある日の給食の写真 ・一か月分の献立表 ・ワークシート ・付箋紙
取り組み やすい点	・児童が活動しながら、3つの仲間に分けるよさに気付くことができる。
留意点	・給食の献立は、児童がバランスのよさを捉えやすいものがよい。 ・できれば当日食べた給食(午後の授業の場合)、または、数日前までの給食で、食べた記憶がある献立だと食材を考えやすい。 ・事前に、付箋紙(ワークシートに貼れるように、サイズを確認しておく)、給食・献立の写真、ワークシートを拡大したものを用意。

<食物アレルギーがある場合の食事について>

- 授業で扱う献立は、可能であれば、食物アレルギーの代替食が見つけやすいものが望ましい。

例) 同じグループの他の食材が入っている献立

(赤の仲間が複数入っているなど。赤が多い日の献立)

例) 牛乳のアレルギーがある場合・・・ ごまプリンに豆乳を使用(豆乳でプリンを作るなど。)

《授業を実践して考えたこと》

- 低学年で学習した食物アレルギーの症状を事前に少し復習しておくとういのではないか。
(食物アレルギーは好き嫌いではない、食べると体が不調をきたすなど)
- 食物アレルギーへの理解は、この1時間の授業だけで完結するものではない。本授業はあくまで食物アレルギーへの理解を図る入口と捉え、食物アレルギーへの理解については、日常的、継続的に行われることが望ましいのではないか。

食物アレルギーに関する指導（高学年）について

1 本資料の教材観

(1) 本資料の視点→保健の視点

アレルギー疾患は、食物アレルギーだけでなく、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎に大別され、花粉症や金属・医薬品等によるアレルギーなども含め、誰にとっても人ごとではなくなっている。

そうした前提から、児童にとってもアレルギー疾患はとても身近な問題であると捉えることができる。したがって、アレルギー反応や免疫のしくみから体のしくみを学ぶことにより、自分の体を知り、家族や身近な友達のことを知って理解することにもつながるものと考えた。食物アレルギーも、体のことを正しく学ぶための内容の一つとして位置付けた。

(2) 本資料の特徴や工夫した点

この指導では、食物アレルギーだけを特化して学ばせるのではなく、児童が自分たちの体を理解することを主眼にすることを考えた。そのため、導入は体育科保健領域の単元である「病気の予防」の学習への移行を念頭に置き、設定している。

「病気の予防」の単元においては、「免疫」という言葉は使用せず、病気に対抗する力として「ていこう力」という言葉を使用している。しかしながら、アレルギー反応とは「本来なら『体を守るしくみ』として働いている『免疫』のバランスがくずれてしまうことにより、体に困った状態を引き起こすこと」であるので、アレルギー反応を学ばせるにあたり、「免疫」という言葉や概念について触れておくことは不可欠である。そのため、指導の中で「免疫」には触れるが、大まかなしくみとして教えることとしている。

「病気の予防」の単元では、この後さまざまな病気やその起こり方について学習する。アレルギー疾患も、その中の一つとしてとらえることができるであろう。体のしくみを理解し、人それぞれ違いがあることを知ることにより、体の面からも「互いを知り尊重する」意識につながると考えた。

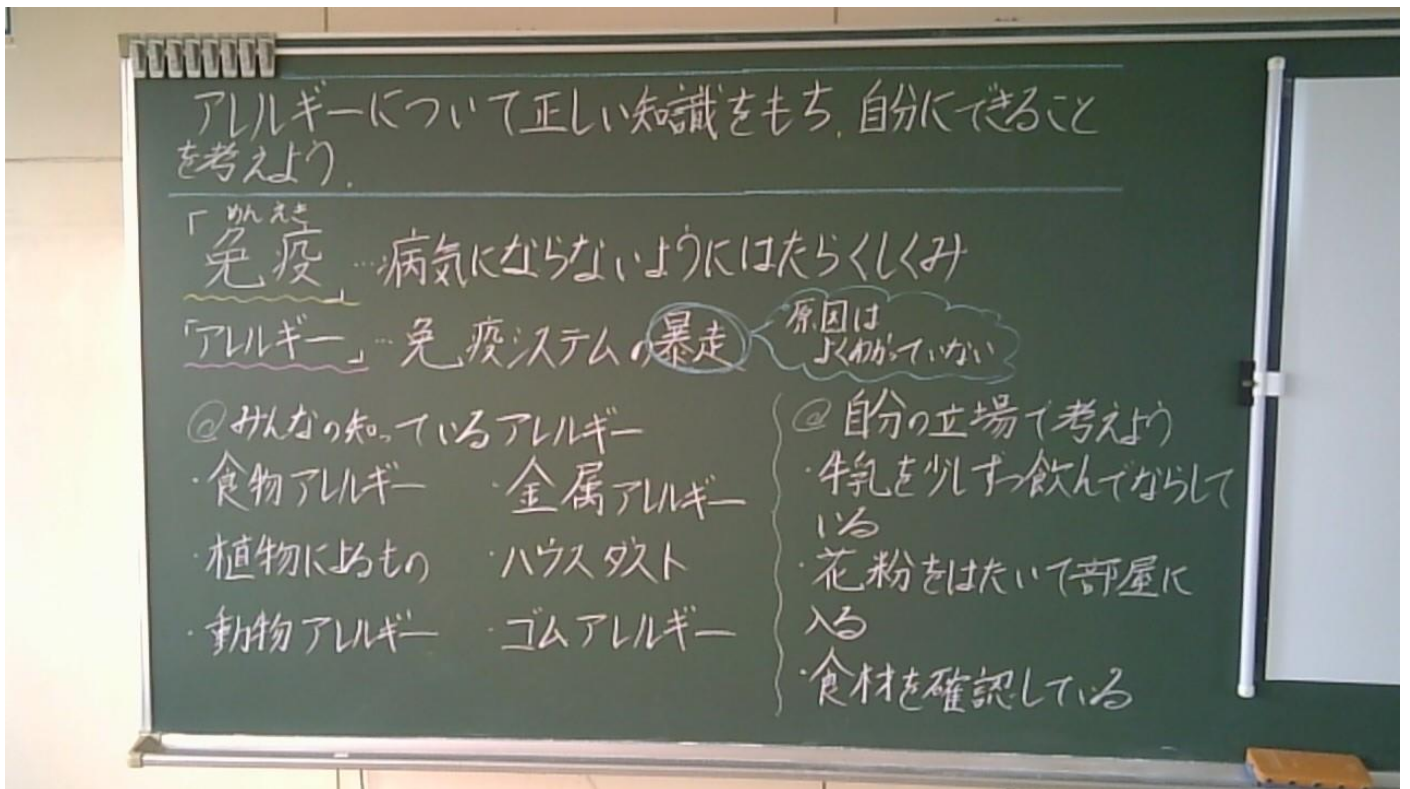
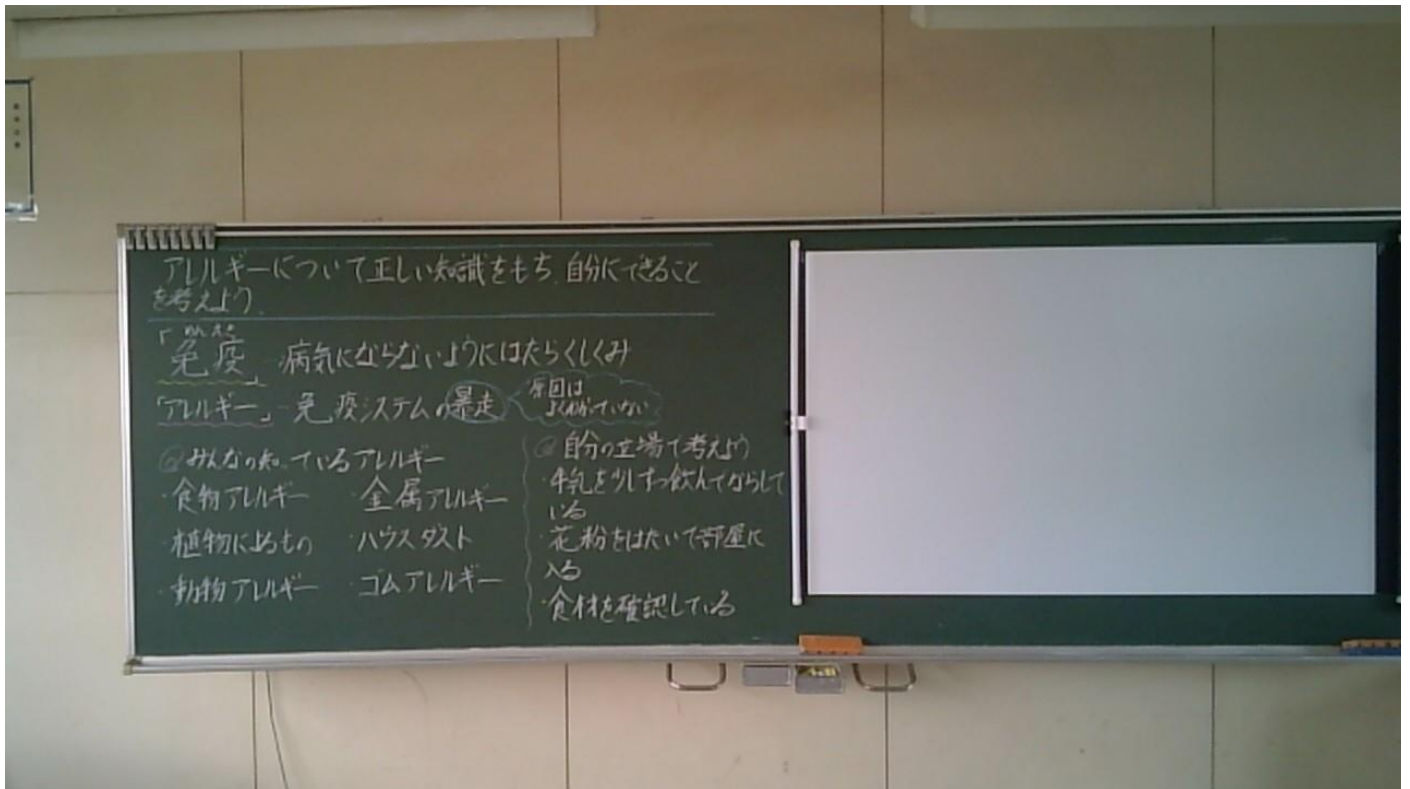
2 指導観

6年生に指導することを想定したこの指導案では、アレルギー疾患そのものに触れた内容が含まれているが、体育の保健領域の内容で扱う「毎日の生活と健康」（3年生）や、「育ちゆく体とわたし」（4年生）の内容にある、日常の生活における健康管理の重要性、体や成長の個人差など、既習事項としてその学習内容を押さえておきたいところである。「からだ・いのち」を大切に思い、それぞれの違いを「互いを尊重し合う」という観点からも、学習の積み上げとして重要なことであるので、それらの内容を念頭におき指導に臨みたい。

食物アレルギーに限らず、科学的な学びを土台とした学びは重要である。正しく知ることによって間違った対応や手だてを防ぐことはもちろんのこと、ただ闇雲に怖がるのではなく、正しい知識に基づく危機感を場面に応じてもつことができ、必要な手だてをとることができるであろう。そうした力を育てる基礎となる内容であることを意識したい。

扱う内容は、病気の予防や免疫、アレルギー反応という内容であるが、疾患そのものを学ばせることに偏らないよう注意し、人の体のすばらしいしくみを自分や友達の体のことであることと理解し実感できるよう、導入は丁寧に扱いたい部分である。

参考資料：よくわかる子どものアレルギー第一巻「アレルギーってなあに？」（ポプラ社）
（各小学校に1冊ずつ配布済み）



3 アレルギー指導を行うための 第6学年保健単元指導計画

(1) 単元の目標

病気・アレルギーの発生要因や予防方法について理解できるようにする。また、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響について理解できるようにする。

(2) 単元の計画

時間	学習内容	評価規準
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・風邪をひく原因について考える。 ・風邪の予防方法について考える。 ・病気が起こる原因について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の起こり方について理解したことを発言したり、記述したりしている。
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・病原体の感染経路について考える。 ・病原体が基になって起こる病気の予防方法を考える。 ・病気にならないためにはどうしたらよいか考え、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見つめたりするなどしてそれらを説明している。
第3時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫のしくみについて知る。 ・知っているアレルギーの種類を挙げる。 ・アレルギーへの対応の仕方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーについて理解し、生活の中で自分が取り組めることを考える。
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の原因について考える。 ・生活習慣病はどのようにして起こるか考える。 ・生活習慣病を予防するためにはどのような生活をすればよいか考えまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康によい生活習慣を身に付けることによって、生活習慣病を予防できることを理解する。
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・虫歯はどのように進行するか考える。 ・虫歯を防ぐにはどうすればよいか話し合う。 ・虫歯の予防の仕方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活行動がかかわって起こる病気の予防について理解したことを発言したり、記述したりしている。
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこの害について調べる。 ・受動喫煙の害について調べる。 ・若い時期からの喫煙の危険性について調べる。 ・喫煙をすすめられたときの対応について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙と健康について理解したことを発言したり、記述したりしている。
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・酒の害について調べる。 ・若い時期からの飲酒の危険性について調べる。 ・飲酒をすすめられたときの対応について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒と健康について理解したことを発言したり、記述したりしている。
第8時	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用の害について調べる。 ・薬物乱用によって起こる社会的な問題について調べる。 ・薬物をすすめられたときの対応について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒と健康について理解したことを発言したり、記述したりしている。
第9時	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の健康を守るための取り組みについて調べる。 ・地域の保健活動で、自分や家の人が活用できるもの考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の健康を守るために、様々な施設や活動があることを理解する。

4 アレルギー指導略案（高学年・体育科保健領域）

- (1) 学年 6年生
 (2) 実施時期 2～3学期
 (3) ねらい ・アレルギーについて正しい知識をもち、自分にできることを考えられる。
 (4) 展開

	学習内容・学習活動	教師の指導・支援	教材
導入 (5分)	体を守るしくみを思い出そう		
	かぜをひいたことを思い出そう。 ○体には自分の体を守るためのしくみが備わっている。	・前時の学習を想起させ、体を守るためのしくみを確認させる。	
展開 (32分)	免疫のしくみを知ろう		
	○「免疫」のしくみについて知る。 ○アレルギーのしくみについて知る。	・免疫のしくみの概要についてイラストを用いて説明する。(P. 10) ・アレルギーのしくみの概要についてイラストを用いて説明する。(P. 11)	・よくわかること ものアレルギー 第一巻「アレルギー ってなあに？」
	めあて：アレルギーについて正しい知識をもち、自分にできることを考えよう		
	○知っているアレルギーの種類を挙げる。 ○立場を決めてアレルギーについて考え、交流する。	・状況や児童の実態に応じて、個人思考・小集団思考の形態や時間配分を変更する。 ・名前を挙げさせるだけでなく、症状を挙げさせたり説明をしたりする。 ・プライバシーに関することなので答えられる範囲で答えればよいことを必ず伝える。	・ワークシート
まとめ (8分)	○本時の学習を振り返り、まとめを書く。	・本時の学習を振り返る。 ・振り返りの発表は、アレルギーのある児童、ない児童両方の立場から考えが発表されるように配慮する。 ・アレルギーが身近な問題であることに気付かせる	・ワークシート

- (5) 評価 ・アレルギー症状について理解し、生活の中で自分が取り組めることを考えられた。

シナリオ台本

	学習内容・学習活動	シナリオ	教師の指導・支援・留意事項	教材
導入 (5分)	○前時の学習を振り返る。	<p>T：前の時間に病気になる原因を勉強しましたね。インフルエンザウイルスやかぜウイルスの写真を見ましたね。そこで学んだことを思いだしながら発展の学習に取り組みました。</p> <p>かぜをひいたらどのような症状がでますか？</p> <p>C：熱が出ます。咳が出ます。鼻水が出ます。</p> <p>T：鼻水がでるのは何のためでしたか？</p> <p>C：ウイルスを外に出すためです。</p> <p>T：咳をする人もいますよね。それはなぜでしたか。</p> <p>C：ウイルスを外に出すためです。</p> <p>T：他にも熱が出たり、ほこりが目に入ったりすると涙が出ますね。</p>	<p>・展開の「免疫」につながるように鼻水・咳・熱などは体を守ろうとする反応であることを振り返る。</p>	
	○「免疫」の仕組みについて知る。	<p>T：このように人間の体には、自分の体を守る仕組みがあってその勉強をしてきました。このような体の害になるものを「体の中に入れない」ことで体を守る仕組みがあるのですね。実は、この他にも体を守る仕組みがあります。自分の体を守る仕組みに免疫というものがあります。聞いたことありますか？</p> <p>C：働く細胞です。</p> <p>テレビでやっているのを見たことがあります。ウイルスをやっつけると言っていた。</p> <p>T：免疫細胞というものがあります。免疫細胞とは、力を合わせて細菌やウイルスをやっつけたり追い出したりします。</p>	<p>★板書</p> <p>➡病気になったら働く仕組み「免疫」</p>	

	学習内容・学習活動	シナリオ	教師の指導・支援・留意事項	教材
展開(32分)	<p>○アレルギーの仕組みについて知る。</p> <p>○本時の流れをつかむ。</p> <p>○本時のめあてをつかむ。</p>	<p>免疫のシステムはどういうものかイラストで説明します。</p> <p>★タブレット（本読み聞かせ） T：P. 10 体の中に害のあるものが入ってくるとやっつける、追い出す、力を合わせてブロックします。体の中に必要なものが入ってくると力になってくれると識別します。</p> <p>P. 11 人間の体にはエラーを起こすことがあります。それは体の中で起こります。免疫システムが暴走してしまいます。例えば、体の中に牛乳が入ってきたときに、エラーを起こして入ってきちゃだめ、と妨害してしまうことがあります。このことを何と言うか分かりますか？聞いたことのある人も多いと思います。</p> <p>C：アレルギーです。 T：そうです。免疫システムがエラーを起こすことをアレルギーと言います。今の例は、食物なので食物アレルギーと言います。アレルギーは食物以外にもあります。今日は、アレルギーについて正しい知識をもって安全に生活することを考えてみましょう。</p> <p>学習することは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アレルギーはなぜ起こるのか。 2. どのようなアレルギーがあるのか。 3. 自分にできることを考える。 <p>です。 T：今日のめあては、「アレルギーについて正しい知識をもち、自分にできることを考えよう」です。ワークシートにまとめることができたら今日のめあては達成です。アレルギーがどうやって起こるかイラストを見て考えていきましょう。</p>	<p>• 体の中で免疫というシステムが働く仕組みを説明する。</p> <p>• よくわかるこどものアレルギー第一巻「アレルギーってなあに？」P. 10イラストを投影（読み聞かせ）する。</p> <p>• P. 11イラストを投影（読み聞かせ）する。</p> <p>• アレルギーは免疫のバランスがくずれてしまうことによって起こすことを知らせる。</p> <p>• 学習の見通しがもてるように補助黒板などに本時の流れを掲示する。</p> <p>• めあてを示す。 <u>めあて</u> アレルギーについて正しい知識をもち、自分にできることを考えよう。</p>	<p>よくわかるこどものアレルギー第一巻「アレルギーってなあに？」 P. 10</p> <p>P. 11</p>

展開(32分)

	学習内容・学習活動	シナリオ	教師の指導・支援・留意事項	教材
	<p>○知っているアレルギーの種類を挙げる。</p> <p>○自分の立場でアレルギーについて考え、交流する。</p>	<p>★タブレット（P. 14）</p> <p>T：ダニアレルギーの人はダニ、花粉症の人は花粉が原因となっています。アレルギーの原因となるものをアレルゲンと言います。</p> <p>T：では、自分の知っているものをワークシートに書いてみましょう。アレルギーの種類は大まかなくくりで構いません。例えば、牛乳や小麦や卵などを大きなくりで言うと？</p> <p>C：食物アレルギー</p> <p>T：そうですね。では、ワークシートの1に記入しましょう。</p> <p>T：出せたものを教えてください。</p> <p>C：金属アレルギー</p> <p>C：植物によるアレルギー。花粉とか。</p> <p>C ゴムアレルギーって聞いたことがあります。</p> <p>T：ワークシートの2に進みます。アレルギーは年齢の経過とともに症状が軽くなったり、新しく発症したりすることがあります。まず自分自身にアレルギーがあるかないか○を付けましょう。あるに○をした人は、アレルギーがあることで困ったこと、対処するとき気を付けていることを書き出してみましょう。ないに○をした人は、家族や友達にアレルギーをもちている人がいて気を付けたことや気を付けていきたいことを書き出してみましょう。近くの友達と考えてみてもいいです。</p> <p>T：班の中で考えの交流をしましょう。自分が言える範囲で構いません。プライバシーに関わることなので、言いたくないことは言わなくていいですよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P. 14イラストを投影する。 ・アレルギーの原因は人によって違うことを知らせる。 ・食べ物・花粉など様々なアレルゲンがあることや症状の多様さについても確認する。 ・ワークシートを配布する。 ・ワークシート1に記入させる。 ・状況や児童の実態に応じて、個人思考・小集団思考の形態や時間配分を変更する。 ・名前を挙げさせるだけでなく、症状を挙げさせたり説明をしたりする。 ・一つ一つのアレルゲンをゆっくりと扱い、身近なものがアレルゲンになっていることに気付かせる。 ・ワークシート2に記入させる。 ・プライバシーに関することなので答えられる範囲で答えればよいことを必ず伝える。 ・自身にアレルギーのない児童に対しては、家族や友達にアレルギーをもちた人を想起できるように声をかける。書くことのできない児童に対しては、花粉症や食物アレルギーのある児童がどのような対策をしているかを想起させる。 ・可能であればアレルギーのある児童とない児童で考えの交流ができるとうい。 	<p>P. 14</p> <p>ワークシート1</p> <p>ワークシート2</p>

	学習内容・学習活動	シナリオ	教師の指導・支援・留意事項	教材
展開 (32分)		<p>班での話し合い：</p> <p>C1：そういえば、果物のアレルギーって聞いたことない？</p> <p>C2：あるある。弟は柑橘類のアレルギーがあるんだ。ジャムなど加工されているものであれば食べられるけれど、果物そのものは食べられないんだ。</p> <p>C3：私は花粉症だから薬を毎日飲んでいるよ。……</p> <p>T：班で話し合ったことを何人かの人に発表してもらいます。</p> <p>C1：ほこりが立つと鼻血が出てしまうので布団にシーツを敷いて寝ています。</p> <p>C2：私とお父さんは花粉症なので服をはたいてから家に入っています。洗濯物は部屋干しです。</p> <p>C3：僕の家も花粉の飛ぶ時期はそうしています。</p> <p>C4：僕は牛乳アレルギーなので、パンなどを食べる時に袋を見て確認しています。直すために少量の牛乳を飲んでいきます。</p> <p>C5：アレルギーの人は絶対に飲んじゃいけないと思っていたよ。</p> <p>T：お医者さんの指導のもと、治すためアレルギーの食材を食べたり飲んだりすることがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 話し合いができるように班の座席を変える。 • 話し合いが早く終わってしまった場合には、話で拳がった以外に考えられることを話し合わせる。 • 班での話し合いのときにどのような話が出たかを把握しておく。全体での発表の際には、多くの事項を出させられるように意図的指名が有効である。 • 自身にアレルギーがある児童、ない児童、両方の立場から考えが発表されるように配慮する。 	

	学習内容・学習活動	シナリオ	教師の指導・支援・留意事項	教材
まとめ(8分)	<p>○本時の学習を振り返り、まとめを書く。</p>	<p>T：最後にワークシートの3を記入します。今日の学習で学んだこと、友達の話聞いて考えたことなどを書きましょう。書き終えたら友達と交流してみましょう。</p> <p>T：数人の人に振り返りを発表してもらいます。</p> <p>C1：アレルギーには様々な種類があって、それぞれに合わせた対処方法があることがわかりました。アレルギーがある人には、しっかりと注意して、周りの人が気遣う必要があると思います。</p> <p>C2：アレルギーは一生治らないものではないことを知りました。正しい対策を考えていくことが大切だと思いました。</p> <p>C3：アレルギーをもっている人は自分の予想以上に多くいた。友達とお菓子を食えるときに友達に確認をすることが大切だと思った。</p> <p>T：今日はアレルギーについての学習をしました。</p> <p>人によって体がみんな違うように、アレルギーも同じで、人によって現れ方がそれぞれ違いますね。自分は大丈夫なことでも人によってはとても苦しい思いをすることになることもあります。想像力や思いやりをもってお互いに配慮できることが大切です。みなさんからもたくさん感想や意見ができましたね。</p> <p>そして、このことは、アレルギーに限った話ではありません。様々な病気についても、体そのものについても、互いに思い合って大事にしていくことがきるといいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシート3に記入させる。 • 本時の学習を振り返る。 • 時間的に可能であれば小集団での交流→全体での交流を行いたい。多くの考えにふれることで自分の考えを深化させたり、新たな考えにふれたりすることができる。 • 振り返りの発表は、アレルギーのある児童、ない児童両方の立場から考えが発表されるように配慮する。 	ワークシート3

体を守るしくみとアレルギー

6年 組・氏名 _____

- 1 みなさんが聞いたことのあるアレルギーの種類を挙げてみましょう。

- 2 それぞれの立場で考えてみましょう。

アレルギーが ある ・ ない ※どちらかに○をつけましょう。

・ あると答えた人

アレルギーがあることで「困ったこと」「気を付けていること」「工夫していること」などを書きましょう。

・ ないと答えた人

アレルギーがある人に対して、「気を付けていること」「工夫していること」などを書きましょう。

- 3 アレルギーについて学び考えたこと、友だちの話を聞いて考えたことなどを書きましょう。
